

東蓮寺藩誕生400年記念

現在の直方市の祖となる東蓮寺藩は、福岡藩主黒田長政の四男 高政を藩主として、元和9（1623）年に誕生しました。今年は、東蓮寺藩が誕生して400年という節目の年を迎えます。それを記念して様々な事業を開催します。

直方にかつて「城下町」が存在し、文化の中心地であったこと、現在もその時代の文化が継承されていることなど、400年の歴史を紐解くイベントを予定しています。

随時、市ホームページや公式SNS等でお知らせしますので、皆さんどうぞお楽しみに。

問い合わせ：文化・スポーツ推進課 社会教育係（TEL 25-2326）



西徳寺山門

（直方藩の藩主館の門を廃藩後に移築したものと伝えられている）



東蓮寺藩初代藩主黒田高政公の供養塔



黒田高政



東蓮寺藩士 甲冑

東蓮寺藩とは？

1623年に福岡藩初代藩主黒田長政の遺言で、四男 高政に四万石を与えたことにより成立した支藩です。

長政の遺言には「鷹取」の地を継ぐように記されていましたが、すでに平和な世の中になっており、不便で手狭な鷹取やその城下の永満寺ではなく、「東蓮寺」の地が選ばれ、殿町に藩主館が置かれました。



直方惣郭図

市街地を詳細に描いた最古の絵図で、天保8年(1837) のものですが、17世紀末の元禄時代の様子をあらわしています。城下町も全体が土塁で囲まれていて、洪水の際には堤防の役割も果たしました。東蓮寺陣屋城下町は、成立当初およそ現在の直方歳時館から北側に限られていましたが、直方藩が一万石加増となった折、歳時館の南の尾根を切り抜いて町が南側に大きく拡張されました。

東蓮寺藩(直方藩)の歴史	
1623年	東蓮寺藩成立(同時期に兄弟藩として秋月藩が成立。藩主は三男 長興)
1637年	島原の乱に初代藩主高政が参戦し、武功を上げる。
1639年	高政が病床に臥し、28歳の若さで逝去。
1640年	高政には子がいなかったため、跡継ぎがおらず廃藩の危機に陥ったが、福岡藩主忠之の次男 之勝を養子として迎え、廃藩の危機を免れた。東蓮寺藩第二代藩主となった之勝は当時、7歳。
1663年	之勝が江戸麻布の藩邸で病死。娘しかおらず、跡継ぎがないため再び廃藩の危機に瀕したが、福岡藩第三代藩主光之の四男 長寛が東蓮寺藩第三代藩主となることを第四代將軍徳川家綱に認められた。第三代藩主となった長寛は当時、5歳。
1675年	長寛が地名を「東蓮寺」から「直方」に改名。
1677年	福岡藩第三代藩主光之が嫡子の綱之を廃嫡し、長寛を跡継ぎとして呼び戻した。長寛は綱政と改名。藩主不在となった直方藩は一時廃藩となったが、城下町に藩士は残った。
1688年	光之が隠居し、綱政が福岡藩第四代藩主となった同年、綱政の弟 長清に五万石を分与して直方藩を復活させ、直方藩第四代藩主となった。 ※以前よりも一万石増えたため、現在の市体育館西側に直方藩主館を新築
1715年	1711年に逝去した綱政にかわって、福岡藩第五代藩主となった宣政は病弱で藩主の務めを果たせないため、幕府の許可のもと、長清が藩主後見となり支えた。
1720年	長清が江戸の藩邸にて逝去。跡継ぎがないため、廃藩。